

I. 課題認識

我々C-3班の中で、各大学が抱える問題として「教職員間の連携が取れていない」という声が挙がった。この共通意見について、どのようにしたらこの問題を解決できるか、そしてこの問題を解決することで何ができるのか、を考えていった。

大学の使命は世に質の高い学生を輩出していくこと。教職員が連携することで学生への対応力が向上し、質の高い大学となるのではないか、それはすべて学生の自己実現のためだと考えた。

II. 討議内容

(1) それぞれの大学が「対応力」に関して抱える問題点を挙げた。その結果出された意見を以下に挙げる。

学生の問い合わせに対して部署間のたらい回し、問い合わせへの素早い対応ができていない、教員・職員の対応に不満をもつ学生がいる、授業に対しての不満が多い、情報が多く学生に有益な情報が届かない、相談をどこにしているかわからない学生がいる、教職員で異なる対応、大学としての一体感がない、学生の意欲低下、退学者の増加、空登録の増加、職員の中に現状維持者がある、新しい発想が出てこない・・・等

(2) (1) について、その問題の解決策とそれによって期待できる効果を発表し合った。また、それらを期待できる効果ごとに大きく以下の7つのグループに分類した。

なお、具体的な解決策については下記の提案内容で触れる。

- 職員の意識を高めることで、職員力の向上を図る。
- 教員の意識を高めることで、教育力の向上を図る。
- 情報を整備することで、学生が必要なときに必要な情報を入手できるようにする。
- 窓口を一本化することで、学生の利便性の向上を図る。
- 学生のニーズを汲み取ることで、学生満足度の向上を図る。
- 教職協働により、教育の質向上を図る。
- 共有データを有効に活用することで、問題のある生徒の早期発見・退学者の防止・進路支援の強化を図る。

Ⅲ. 提案内容

討議内容（各大学の問題点）をまとめ、これらを以下の順序に従って実行していくことで、効率よく、学生対応力の強化された大学づくりができるのではないかと考えた。

（１）組織構成員の改革

まずは、大学全体の状況を把握、企画・立案できる立場にある職員の意識統一、意欲向上を図り、職員力を向上させる。

Ex. 大学の理念・建学の精神の再認識、関連法規の勉強会、研修会の参加、笑顔や挨拶

（２）サービス・サポート向上

学生が必要な情報を必要なときに入手・利用できるように、既存の情報発信ツールの見直しを図る。

Ex. ホームページの充実、Web コンテンツの充実、各種施設の案内、メール相談の受付

（３）教職協働に向けて

職員の意識統一を図り内部のサポート体制を充実させた後は、教職協働に向け、教員の意識統一、意欲向上を図る。ひいては、大学全体の意識統一を図る。

Ex. 意識の高い教員による研修会の実施（FD活動の推進）、教員が質の高い授業を実践できるような職員のサポート体制構築、教職員全体による研修会の実施、教職員統一のグループウェアの導入

（４）教職協働によるステークホルダーの満足度向上

教職員で大学全体の意識統一を図り、内部のサポート体制を充実した後は、大学として学生の声に耳を傾け、その問題を解決していくことで、問題のある学生の早期対応、授業のミスマッチ防止、退学者の減少、未内定者への適切な対応などが可能になる。ひいては学生の満足度向上につなげる。

Ex. 各種（大学生活・授業など）アンケートの充実・アンケートの結果を基に学生に対してのフィードバックの徹底、学習到達目標が明確なシラバスの整備、学生の就学状況の教職員間でのデータ共有・有効活用

（まとめ）

以上のように各問題を解決し、教職協働の体制をとることで、大学の理想の姿に近づくことができる。また、学生にとって自己実現するための最適な環境となり、結果的に大学として質の高い学生を世に送り出していくことができる。